

散在流星について2：観測方法と散在流星(小関正広)

「散在流星」のなかみは観測・研究者の「流星群の定義」によって違ってくることはもちろんだが、観測法によっても大きく異なる。ビデオ観測は高速の流星を、写真観測は低速の流星を多く捉える。電波観測は写真観測に次いで低速の、そしてII観測は写真観測とビデオ観測の中間的な性質を示す。

ビデオ観測のなかでもGMNとSonotaCoネットでは違いがあり、GMNはより低速の流星を多く捉え、さらにSonotaCoネットの観測でも2020年以降の観測では2007~19年よりも低速の流星の割合が増えている。光度分布はもちろん、流星体の物理的性質を考慮するのに使われる発光点高度が両者で異なっていることを示した。光度を含む物理的性質を議論する際にSonotaCoネットのデータでは2020年以降のデータに注意が必要である。